中山道をめぐる 熊谷の歴史と文化遺産

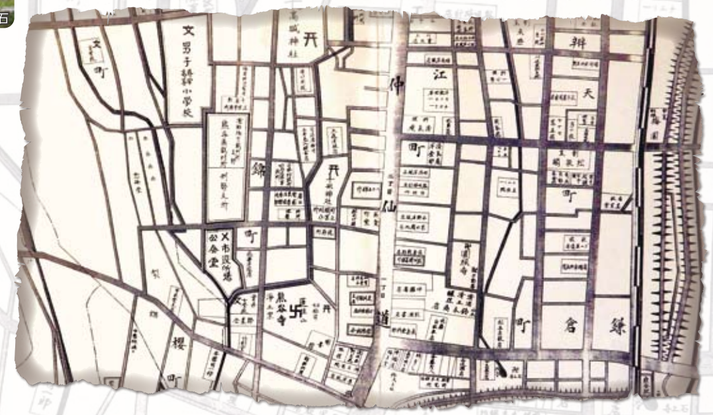
熊谷の中心

を通過していた中山道。中山道は古くは東山街道と呼ばれていた。一六〇一年（慶長六年）に江戸幕府により宿駅・伝馬制度が整備された五街道の一つで、日本橋から京都三条大橋までの約五三二キロ、六十九宿（草津と大津の宿は東海道と重複）の行程であった。

なお、中山道の名称については、一七一六年（享保元年）に幕府は、それまでの「中仙道」などの名称を「中山道」に統一化された。加え、中山道と比較されることの多い東海道は、全行程約四九二キロであり、中山道の方が約四〇キロ長い。

熊谷宿は、六十九宿のうち、（江戸・日本橋）から板橋、蕨、浦和、大宮、上尾、桶川、鴻巣の後に至る宿場町であった。江戸時代、中山道の宿場を描いた渓斎英泉「熊谷宿八丁堤景」からもその様子を見ることができる。中山道をめぐる名所や史跡を辿りながら、熊谷の歴史と文化遺産について感じてみたい。

渓斎英泉「熊谷宿八丁堤景」



❶久下一里塚跡
（熊谷市久下一二一）：日本橋から一四里目に当たり、中山道は土手の中腹を通っていたことを示す史跡。土手の中腹には馬頭観音が置かれている。熊谷における中山道の入口にあたる。

馬頭観音

❷権八地蔵
（熊谷市久下一三四二）：江戸時代、歌舞伎などにも登場する白井権八（平井権八）が殺人を犯した時、近くにいた地蔵が「われは言わぬが、おぬしこそ言うな」と話し掛けた逸話が残されている。市の有形民俗文化財に指定されている。

権八地蔵

❸東竹院とだるま石
（熊谷市久下一八三四）：東竹院は久下次郎重光が開基し、十二世紀頃に寺院として整えられた。寛文年間（一六六一）に忍城主が、禅宗の祖、達磨大師に似た巨石「だるま石」を秩父から城中へ運ぶ途中、川に落下させてしまった。それから二五〇年が経過した大正時代、川底から掘り起こされ、東竹院に安置されている。

東竹院とだるま石

❹元荒川ムサシトミヨ生息地
（熊谷市久下四〇四四他）：ムサシトミヨ保護センターを水源とする元荒川最上流部は、希少淡水魚ムサシトミヨが生息する世界で唯一の地として県の天然記念物に指定されている。

ムサシトミヨ

❺八丁の一里塚
（熊谷市曙町四・六）：曙公園内の林立は、久下の一里塚から一里の場所にあり、その間に八丁の堤（久下の長土手）があったことから、この一里塚は「八丁の一里塚」と呼ばれている。

❻高城神社と常夜灯
（熊谷市宮町二・九三）：創建年代は不詳。延喜五年（九〇五）に出された「延喜式式内社」に示される古社。江戸時代には忍藩主阿部豊後守忠秋公により、寛文十一年（一六七一）に社殿の寄附を受けた。鳥居近くにある常夜灯（市指定有形民俗文化財）は、天保一二年（一八四一）に造立された青銅製の塔。当時の奉納者名が刻まれている。

常夜灯

❼札の辻跡・本陣跡
：「札の辻跡」は現在の大露路通りと中山道との交差点周辺にあった高札の掲示場の跡であり、市指定史跡となっている。また、同じく市指定史跡の「本陣跡」は、熊谷宿の中心となった竹井本陣と呼ばれる休泊所の跡地である。建坪七〇〇坪を誇り国内最大規模であったが、明治の火災と戦災で失われてしまった。

本陣跡

八木橋の歩みと中山道

八木橋百貨店は、明治三〇年（一八九七）、初代・八木橋本次郎氏が、中山道沿いの熊谷市仲町に木綿太物を主とした八木橋呉服店を創業したことに始まる。第二次世界大戦終戦の直前の空襲被害で店舗全焼、即座に焼け跡を整備し店舗を建設、営業を開始した。昭和三十六年には通産省の営業許可を受け、埼玉県下初の百貨店となり、地域密着型の百貨店として国内でも広く知られている。

かつては中山道を挟んで南北に店舗を分けていた八木橋であったが、一九八九年に整備を行い、南側の地元商店を組み入れながら、現在の百貨店が建てられた。

その際、敷地内に隠れてしまうと思われた中山道であったが、店舗の東口と西口をつなぐ通路として整備し、同じ場所に中山道を再現させたのである。そこからも、熊谷の歴史と共に歩んできた老舗、八木橋ならではの心意気がうかがえる。そして、野口白汀氏が記した「旧中山道跡」の石碑が残されている。

中山道南側から八木橋百貨店内に商店を移設した「イズミヤ」の社長である多胡博幸さんは、「その当時、街道を歩いていた人や近くで商売していた人の精神を引き継ぐ粋な計らいだった」と感慨深そうに語った。そして、八木橋社長も「地元商店の方々のご理解があってこその事業だった」と中山道をまたいだ信頼関係に思いを巡らしていた。

中山道を偲ばせる八木橋百貨店の一階通路

シルクドソレイユ「オーヴォ」マダムタッソー館 春のバスツアー

桜満開の四月二日、小麦の会恒例の春のバスツアーが行われた。

シルクドソレイユ「オーヴォ」では、壮大なセットを使用する演目、美しい空中曲芸、スケール圧巻のアクロバット、予測不可能な伸縮自在の動き、芸術性溢れる優美な世界に魅せられた。左右揺れてたわむワイヤー一本の上での脅威の技は緊張の連続だった。

マダムタッソー館では、精巧で今にも動きだしそうな等身大フィギュアと記念撮影。

E・Tと一緒に空を自転車で飛んでみたり、ビートルズと横断歩道をウォークしたり、幕末に仁義スリップして坂本龍馬と談合している写真を撮った。竜馬があまりにも小柄だったのにはびっくり。相反して、まつこは…大きかった。

隣のバスに乗車してしまう人達、集合場所を間違えてしまう人達とハプニング続出の珍道中だったが、バスの中は始終賑やかで会話が弾み、充実した楽しい一日だった。

次の小布施ツアーも楽しみにしている。（Y・K）

小麦の会 第八回 定例総会

第八回定例総会を開催、無事終了いたしました。

去る五月二十四日（土）菊亭にてNPO法人くまがや小麦の会（田向美津江会長）第八回定例総会が行われました。

会員数（三七名）賛助一一二名、一般（二五名）のうち出席者四十一名、委任状（二二）名で過半数を充足し総会が成立、全ての議事が承認されましたことをここにご報告いたします。

総会では、熊谷商工信用組合理事長、鴨田隆三様より開会のお言葉をいただきました後、田向美津江会長により今年度の活動内容として特に北部地域まちづくりNPO等交流会の講演における長野県小布施町町長、市村様のまちづくりのお話の様子やその後、小布施町を訪れ市村町長との交流の様子や市民協働、熊谷の力、さとのそら消費拡大事業についてのご報告がありました。

当日のゲストスピーカーの埼玉県秩父環境管理事務所所長石川勉様よりご自身の体験にもとづく、秩父（羊山公園）の芝ざくらを植栽し秩父の地の名所に育て上げたお話を通し、今後のNPO法人の在り方についてのご指導ご鞭撻をいただき、皆様熱心にお聞きしました。

懇親会では、旬の料理を堪能し恒例のジャンケン大会で大いに盛り上がり、最後に三名の方々の締めくくりでお開きとなりました。（N）

市村町長をお尋ねして 花のまち小布施に

昨年の十一月三十日に立正大学講堂で開催されました「北部地域NPO等交流会」に講師として御参加下さいました小布施町長の市村良三氏の講演、協働と交流まちづくりとは聴衆の心を深く捉えた。街づくりのリーダーは周りの人々を巻き込む求心力に溢れていた。農業を基盤とした、晩年の葛飾北斎を通わせた小布施町を五月二十日四十三名のバスツアーで尋ねた。受け入れてくださる市村町長、町役場の方々は実に真摯に対応して下さり、ワクワク気分は訪問前から盛り上がっていた。岩松院の八方睨みの鳳凰図は本堂の天井にいっぱいに描かれ、作品の色も長野の気候に守られてか鮮やかに残されている。

市村町長がお話し下さる昼食会場は小布施堂本店。少々早く到着して、御参加下さった会員の方、埼玉県庁の方、熊谷市役所の方を交えた四十三名は隅々まで行き届いた食事処に御案内頂き、ホッとしたざわめきの中で待った。定刻にご登場、オーラの後輪は相変らずだ。町長様は各テーブルに丁寧な御挨拶を下さった。人を決めつけることなく、人口二万二千人の小布施町を観光立国に導いていった。国土交通省の「観光カリスマ」に認定された市村町長様の拘りが小布施の感性を高め、又訪れたくなる街に育てている。小布施堂はセンスが光る。デザートのスプーンには栗の彫り物がなされ、持手には赤漆が施されていた。食後には和菓子（つる梅擬の葉に包まれた餅と抹茶が供された。

まち歩きの御案内も町長さんが自らご案内下さった。小布施の個人宅の庭を通り抜けてできるオープンガーデンが二八か所も解放されている。町長様のご自宅のお庭はNO・64。御案内下さり、ご用意下さっていたビールサーバーでビールのサービスを皆様に頂いた時は、小布施の楽しさを心から満喫しファンになった。

北斎館の画狂人北斎の肉筆画にため息をつき、栗の小径を抜け高井鴻山記念館では、北斎を洋画して小布施に招いた審美眼を持つ鴻山自身も卓越した画家であった。見たこともない象を見事に描いている。桝一市村酒造、桝一客殿・蔵部、櫻井甘精堂、竹風堂、自在屋・和紙の店、明りの美術館、中島千波美術館、フローラルガーデン一日では無理だ。施設、催事も楽しそう。江南大里は小布施の人口に近いし、環境もある。小布施に学ぶまちづくりが出来そうに思えた。町長様に御案内頂く事はそうそう出来ないが、帰路の車中は御参加下さった皆様の笑顔であふれた。小麦の会第2弾の小布施ツアーを企画したい。（H）

文化財で街おこし

市指定文化財名勝「星溪園（せいけいえん）」

元和九年（一六二三）、荒川の洪水により当園の西方にあった土手（北条堤）が切れて池が生じた。この池には清らかな水が湧き出るので、「玉の池」と呼ばれ、この湧き水が星川の源となった。後に竹井本陣の当主、竹井澹如翁が、その場所に別邸を設け、「玉の池」を中心に木竹を植え、名石を集めて庭園とした。この池は、熊本の水前寺の庭園と、京都の泉湧寺と共にかつては、天下の三美泉と言われていた。

明治十七年（一八八四）に時の皇后（昭憲皇太后）がお立ち寄りになり、大正一〇年（一九二一）には秩父宮が宿泊されるなど、知名士の来遊が多く見られた。昭和初期、前大徳牧宗禅師により「星溪園」と命名された。

戦後、熊谷市が譲り受け、市の名勝として指定された。平成二年から四年にかけて建物と庭園の整備がなされ、星溪寮、松風庵、積翠閣の三棟の建物には数寄屋感覚が取り入れられ、日本的文化教養の場として復元された。

星溪園の前庭には、文禄の役に加藤清正が朝鮮から持ち帰ったとされる袖振り石・天柱石が置かれている。庭園には、百数十種類の植物の他、灯籠・層塔・十王供養塔などの石造物も置かれ、薫り高き名勝の空間を作り上げている。

平成二十六年 春の褒章（医）くぼじまクリニック 大島譲二理事長・院長先生 藍綬褒章 受章されました

大島譲二理事長・院長ご夫妻は、五月十二日、皇居春秋の間において天皇陛下に拝謁し、地域医療発展に貢献された功績により褒章の栄を賜りました。ご夫妻は小麦の会の賛助会員として設立時より、会の運営に多大なご協力を下さいました。

先生の美的感覚は素晴らしく、小麦の会の製品シールのデザインも手掛けて下さいました。熊谷市地域医療の要として美恵子令夫人と共に歩まれます事を御祈念申し上げます。素晴らし御受章おめでとうございます。

うちわ祭 官民協働 市役所通り 清掃作戦

7/22(火) 23(水) 市役所前7時にお集まり下さい

昨年うちわ祭最中、頃は市役所通りの自治会の皆様は通りの清掃にご尽力なさっておられます。うちわ祭の限られた日ではございますが、市役所通りの清掃活動に協力をして、官民協働事業と致したく存じます。左記要領で実施いたしますので、老若男女皆様、お申し込み先にご連絡をお願い致します。市役所前へ集まりましょう!!!

日時 七月二十二日（火）七時～九時
七月二十三日（水）七時～九時

集合場所 市役所前 七時

※清掃用具をお受け取りください
軍手・トング・ビニール袋・麦わら帽子
※市役所両脇の自治会さんに前もって
等・塵取りのセットをお配り致します。

申込先
NPO法人くまがや小麦の会（担当・日向）
TEL：048-551-7801
FAX：048-551-7900
熊谷市役所 商業観光課（担当・田沼）
TEL：048-524-1111（内線3-2）
FAX：048-525-9350

りっしょうようちえん
立正幼稚園
入園に関するご質問、子育てに関するご相談をお待ちしております。お電話でもお受けしております。
理事長 及川周介
園長 馬橋 旭

学校法人熊谷立正学園 立正大学系列 立正幼稚園
〒360-0164 埼玉県熊谷市楊井1748-2
Tel：048-536-1688
Fax：048-536-2168
E-mail:yochien@rissho.ed.jp
URL:http://www.rissho.ed.jp/

きれいな水を飲んでいますか？
貯水槽清掃
塩素滅菌機発売
浴槽配管薬品洗浄（レジオネラ症対策）
パイプクリーニング
塩素消毒液発売・その他
貯水槽高架水槽塗装
山光化学株式会社
〒360-0111 埼玉県熊谷市押切795－1
TEL 048-536-8711
FAX 048-536-8700

株式会社 平松
代表取締役 日向研一朗
歴史が育む無限の可能性…地域密着・食品卸売業

原材料食品は包材まで御用命下さい
We are HIRAMATSU
〒360-0801 埼玉県熊谷市中奈良1797-1
TEL：048-521-0026
●ビッグベアショッピングモール（埼玉県熊谷市代1067）
・西友・トイザらス・スポーツオーソリティー・ブルームーンカフェ・大黒屋
●平松運輸株式会社（埼玉県熊谷市中奈良1797-1）

これからも、地域とともに。

熊谷 八木橋
〒360-8502
熊谷市仲町74番地
☎048(523)1111
営業 午前10時～午後7時
www.yagihashi.co.jp

Momijiya Honten
紅葉屋本店
埼玉・熊谷
五家寶、二百五十年。

〒360-0023 埼玉県熊谷市佐谷田3247番地
TEL 048-521-0376
http://momijiyahonten.com